

## 「自律型」へ提案委託、自販

北陸最大の長繊維織物製造、丸井織物（石川県）は今期（12年12月期）から新中期経営計画をスタートした。委託加工を事業の柱としながらも、「受身型から、主体的に開発できる力を持つ「自律型」への転換」（宮本徹社長）を図り、消費者に近い情報を企画に結び付けた提案力の強化、設備投資による物作りの高度化を進める。同時に一層のコスト削減で収益力を上げ、売上高は前期の78億円に対し、15年度に100億円を目指す。

### 設備投資で新用途開拓

中計は「変革100」と名付  
を立てた。同社は国内で100  
け、12年度からの4九年の戦略  
〇台規模の織機を保有し、今後

も国内に生産の軸足を置きなが  
ら世界との競争に打ち勝つた  
め、自販強化を中計の大きなテ  
ーマに掲げる。

ただし、自販は流通の中抜き



「マルイテックス」のブランドで主体的に開発したテキスタイルを強化

が目的ではなく、アパレルメー  
カーや小売りなど取引先を通じ  
て得た消費者に近い情報を  
企画にフィードバックし、「付  
加価値の高い物作りへつなげる  
狙い」だ。生機販売や、染色ま  
で完結した完成品テキスタイル  
を「マルイテックス」ブランド  
でアピール、委託加工の客先と  
バッテリーしない中小の新規  
取引先を開拓するため、東京、  
大阪にある営業所の人員増強を  
計画する。

色など前後工程まで見渡した主  
体的な開発力を持つことで、  
「提案型委託」へ脱却してい  
く。

中計では物作りの高度化も目  
指し、今期から設備投資を進め  
る。これまで主力のスーツ用  
途ではダウン側地向け高密度織  
物の市況が悪化しているが、シ  
ヤツやパンツといった用途で機  
能付加や感性表現ができる二重  
織り、多重織り対応を試験的に  
進め、今後、織機改造による本  
格導入を視野に入れる。

取引形態は今後も東レグルー  
プを中心とした委託加工が主軸  
となるが、糸の企画・調達や染

また、ウオータージェット、  
エアジェット織機に加え、今秋  
にはレピアの試験機を導入し、  
対応素材や用途の幅を広げる。  
設計から生産におけるシステム  
投資を進める。テキスタイルの

差別化につながる糸加工も強化  
し、自前の捺糸のほか、メッキ  
など外部工場も活用した糸のア  
レンジでテキスタイルを高度化  
し、新しい用途軸を探る。

今期は高密度織物の市況低  
迷、海外市場の不振、円高によ  
る海外メーカーとの競争などが  
強まっており、下期以降も厳し  
い環境を予測する。このため、  
素材開発による新しいニーズの  
発掘と並行してコスト削減を進  
め、収益力を引き上げる。グル  
ープの宮米織物で工場照明のLED  
（発光ダイオード）化を実  
施するほか、丸井織物の織布工  
場も今夏に導入するなど今後1  
〜2年でLED照明に全面転換  
し、電力消費を6割削減させる  
計画だ。